

1位、第2位が休養である。大家族家庭では、雑談、お茶が他に比して多く、若年層ではおけいこが多い傾向が見られる。

F-5 主婦の余暇時間の調査（第1報）

四天王寺女短大 ○岸田キクエ
大阪府庁労働部 篠原 冬

1. 主婦の余暇利用のための手がかりとして、実態、願望、計画性についての調査を行なった。
2. 中流家庭 450 世帯の主婦につき、アンケート法によって実態を調査し、分析した。
3. 今回は実態についての報告にとどめる。(1) 全体的には 0 分～540 分の余暇時間を持ち、朝は 0 分が 47%、昼は 30 分～60 分が 29%、夜は 30 分～60 分が 33%、120 分が 29% である。(2) 家族数の大小では、大は小より時間が少ない。朝で、大 0 分 60%、中 58%、小 56%。昼は、大 60 分が 31%、中 35%、小家庭は 180 分が 23% である。夜は大中小とも 120 分持つものが最も多く、大 21%、中 小とも 35% である。(3) 職業によれば、主婦が自分で職業を持っているものは少なく、給料生活家庭は多い。自家営業の家庭では余暇時間の差が多い。(4) 学歴によれば、高小卒、高女卒、専門卒とも特別の傾きはない。(5) 年令によれば、20～30 歳代では 60 分持つものが最も多く、40 歳代、50 歳代以上は、持ち時間 120 分がピークである。概して 50 歳代以上の家庭では、余暇時間が多い傾向が見られる。(6) これらの暮らし方では、以上の別にかかわらず、第 1 位テレビ、第 2 位新聞雑誌、第 3 位休養である。ただし小家族家庭高年令層では、新聞雑誌が第